

窓

— 同窓会だより —

No. 97 (平成 26. 2. 28発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



地学・雷・魚津

富山大学教授 (地球科学科)
酒井 英男

(魚高23回)

近年、地震・津波(東日本大震災)、火山(小笠原の新島)、異常気象、地すべり等の自然災害が話題になり注視されているが、言葉の汎用の割に現象は理解されていない。これは地学の教育にも原因があるのかも知れない。魚津高校には地学を専門とする先生がずっといらつしやり、今は室井先生(國香校長)が授業を担当されている。しかし現在、県内では専門の先生が地学を教える高校は数校しかなく、魚津高校は珍しい。

地学は、地球スケールでの46億年の出来事を対象とし未解明のことが多いが、最近の自然現象の変化と社会的要請もあって研究は大きく進展している。こうした現状を理解した先生が高校で教える必要性は高まる筈であり、魚津高校でこの方針が続



研究室の学生たちと(後列左)

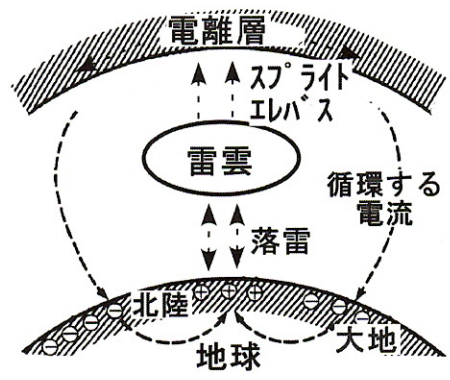
くことを願っている。ちなみに、私は西田輝雄先生から地学を教えて頂いた。偉そうなことを言ってしまったが、私は生

粋の地学研究者では無く、元々は物理を専攻し、博士課程の途中から境界領域の地球(の電磁気)を研究している。オイルショックで地球のエネルギー問題が真剣に語られた時代、時代に大学を卒業し、地球の多面的な研究を目指しておられた先生の下で地球物理を始めた。

現在は、地球の属性である地球磁場(地磁気)を対象に、過去の地磁気、プレート運動、オーロラや太陽(風)と磁気圏の関係等を研究している。調査では、通常はまず行くことがない国外の僻地や南極・北極海等にも出向き、また考古学との学融合研究として、インダス文明、シルクロードやチンギスハン関連等の著名な遺跡を調査する機会もあって楽しんでる。

9年の学生生活を終えて富山大学に勤める時、周囲から地元の大学だと動きたくなくなると言われたが、上司の先生や研究室の人々にも恵まれその通りになった様である。最近、これを恩と思つて、地域の研究も試みている。

その一つに雷の研究がある。雷はフランクリンの凧揚げ以来、雲・大地間の放電として研究されてきたが近年、雲から上へ向かう雷が発見さ



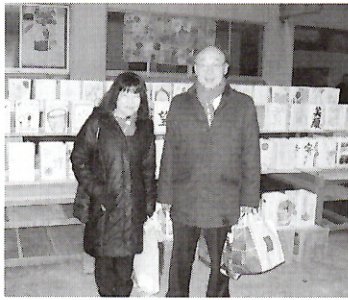
雷雲と地球のグローバルサーキット

れ、そして雷を起源とする地球を巡る大きな電流回路がみえてきた。この輪廻の様な大規模な電流循環は地球環境や自然災害にも影響しているらしく、大きな学問分野になりつつある。そこに、北陸の冬の雷は重要な役割で絡んでいるのである。我々は特に、手つかずの課題となつている落雷電流の大地での挙動について、”雷の化石(土や周囲物質の磁石)”を用いて、謎解きに挑戦している。

また魚津のシンボルと称される埋没林と蜃気楼についても、科学的な調査はまだ十分では無い状況であり、市・県の依頼もあって新規手法の研究を開始した。富山の特異な自然がマスコミで紹介されることも多くなつたが、地元大学からの貢献は少ない。”地の者”が研究しなくてはと意気込んでおり、将来、皆様に魚津をアピールする世界にはばたく成果を報告できる機会があれば幸いである。

「忘れない・今を知る」が 東北支援

瀬戸珠算教室
瀬戸 高 則
(株池田模範堂監査役 魚高18回)



絵灯籠の前で記念撮影
(写真右)

11 関上の集
い」に2年

かば幼稚園
再建など支
援の輪を広
げ、現地と
の「絆」を
深めてきた。
亡くなった
千人の方を
偲ぶ「3・

新川地区高校生による「東北の今を知ろう」プロジェクトの活動は、池田模範堂が行っている東北支援活動とイメージが重なる。被災地を直接見ることで東日本大震災の実態が理解できると、宮城県名取市にひとり訪れ、名取観光復興プロジェクトの中心メンバーと会ったのは震災発生から半年後だった。当時の被災地関上(ゆりあげ)地区は瓦礫のほとんどが整理されていたが、解体途中の家もあり、津波で流された漁船が道路横にゴロゴロしていた。メンバーから支援して欲しい要望を聞き、津波に遭った桜の枝から芽を採取して桜を育てる復興桜里親企画への参加、イベントテント寄贈、赤貝漁船復興義援金、ゆりあげ港朝市復活や、わ



関上中学グラウンドに飾った「絵灯籠」2012年3月11日

連続現地訪問、追悼イベントで灯す「絵灯籠」の制作では、池田模範堂社員を初め、ボーイスカウト魚津第2団、フランスの知人などに依頼し多くの灯籠絵を描い

て貰い、関上に夢や希望を持ってもらうとメッセージを送ってきた。NHKスペシャル番組「住民合意800日の苦悩」で、名取市と住民の復興に対する意見の対立が報道されたが、被災者と行政の立場の違いで復興が進まない現状がある。「被災地を忘れないで欲しい」が現地の願いだが、日が経つにつれ忘れられてしまうのも現実。東北支援で今何ができるかは、被災地を定期的に訪れ、現状を確認して進めることが大切だと思う。

3・11の気づきを生きる

河内 聰 雄

(自然農農夫 魚高32回)

3・11は日本人に何をもたらしたのだろうか。助け合い、お互いさま、絆、L

OVE、以前ならどこかスグったくなるような言葉を、今では当たり前のように使うようになった私たち。これこそが最大の変化だと思う。その源にあるのは、他者への思いやり無償の愛。全ての物や行動に値段が付いて売り買いされるマネー主義の現代において、決してお金では買えない、愛という、人が人である最も重要な価値観に気づかされた。日本人は自然界からの大いなる力で、あの日、強制的にリセットされたのかもしれない。私はその日、偶然いた東京で被災。急遽理事を務める環境NGOのアースデイ東京で被災地支援プロジェクトを立ち上げ、東京タワー1階にボランティアセンターを開設。週末には最大の被災地石巻に支援物資を運び、その翌週より秋まで



電気が復旧しない中、設置したソーラーパネルの前で
(写真左から5番目が筆者)

毎週石巻へ、はとバスならぬボランティアアバスを運行した。幸い日常生活に拘束される理由が無かったこともあり、石巻には秋まで長期滞在



瓦礫と共に発見された写真の洗浄

し、刻々と状況が変化している被災地ニーズに合わせて、その時でできる限りの支援活動をさせてもらうことができた。被災地では当たり前だった行政

サービスが全てストップする。市民が互いに支え合うことで補うしかなく、動ける人が自主的に完全自立型で、本当に必要な事を行う毎日。マニュアルなんてないライブな日々。肩書きや理屈など通用しない。メッキが剥がれ、一人一人が本来持つ力があらわになる。フリーターと呼ばれた若者たちが活き活きと活動し、ガテン系の現場力がとても頼りにされた。被災者もボランティアも、皆が「ありがとう」で結ばれる関係。その笑顔が見たいから、また明日も元気に働けた。元の世界に戻るのではない。あの日、日本中の私たちは大きく変わった。生まれ変わったのだという事を忘れてはならない。でなければ、犠牲になられた御霊が浮かばれない。一日一日を大切に生きること、日々の供養にしたいと思っています。

同窓会総会記念講演

魚津水族館創立百周年を迎えて

魚津水族館長 稲村 修 氏 (魚高28回)



魚津水族館長 稲村 修 氏

魚津水族館は、大正二年に一府八

進会の博覧会第二会場として、日本

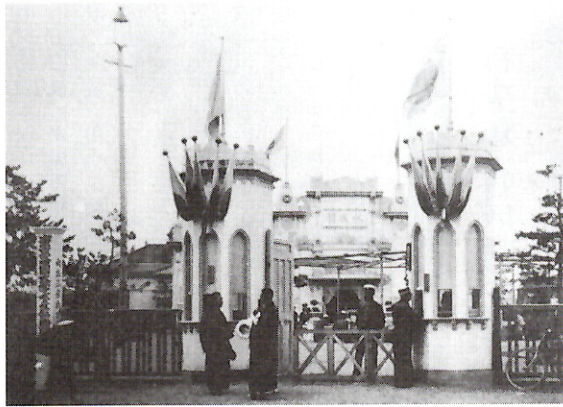
海側で最初に創立された水族館である。水族が採集しやすく波が静かである。水質も良いことから、県内でも魚津が選ばれた。大正三年に、東京帝国大学水族動物研究所にも指定された。

これは、東京帝国大学農科大学教授の石川千代松博士が、ホテルイカ等の研究で魚津を訪れていたからと推測されている。石川博士は大正五年に、世界的に有名な発光生物研究者である米国プリンストン大学のニユートン・ハーベイ夫妻とともに来館しており、当時の写真が魚津水族館に残っている。

大正三年八月十三日の夜、停電で真っ暗になった魚津水族館で発見されたマツカサウオの発光は、当時魚津中学の教師をしていた吉澤庄作先生が大正五年に世界で初めて動物学雑誌に発表した。吉澤先生は、魚津水族館で展示していた魚の種類や行

動についても書いています。100年前に、地方の中学教師が東京に論文を出していたとはすごいことである。吉澤先生は、現在、魚津高校の校庭にあるヒマラヤ杉を植えた方でもある。

二代目水族館は、戦後の昭和二十九年、富山産業博覧会の魚津会場としてオープンした。当時の金光市長の尽力によるもので、魚津市は「蜃気楼、ホテルイカ、埋没林」の三大奇観を大々的に全国発信した。ホタ



初代魚津水族館

魚津水族館は、平成二十五年九月に創立百周年を迎えました。稲村氏は、その三代百年にわたる歴史の変遷と現状、今後についてご講演をされました。その一端を紹介します。

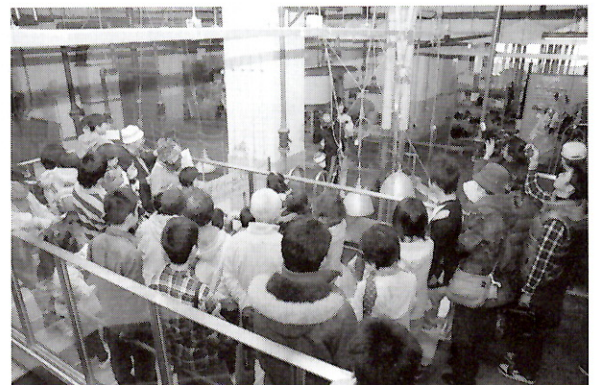
ルイカ館があり、マツカサウオとホテルイカを入れて光らせていたらしい。ホテルイカ遊覧船も開館の時があった。魚類学者である今の天皇陛下(当時は皇太子)ご夫妻が来訪され、後にノーベル賞を受賞した下村脩先生も来られた。

昭和五十六年に、「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「日本海を科学する」という基本テーマを掲げた三代目水族館が開館した。

今、水族館では「富山の自然を守ろう！—希少生物展—」をやっている。人為的な開発等で自然を壊してきて、気付いたら多くの生物がいなくなっている。今、魚津市でメダカがいるのは1箇所だけで、そのメダカを水族館で育て、小学校の池で増やして活用している。富山県絶滅種のホトケドジョウは記録のみで、イトヨは十年程前から全く見られない。

百周年を迎えた魚津水族館の展示のコンセプトは次の三つだ。

- 一、もつと富山にこだわりたい！
 - 二、世界の環境を伝えたい！
 - 三、水族館の裏側を見てほしい！
- 学校のキャリア教育の一環として、



新設したバックヤードコーナー

「飼育係と話をしてほしい」という声が多い。裏側では餌づけをしているダイバーとも話ができる。また、幼稚園等をターゲットにキッズコーナーも作った。年間パスポートがあり、大人一回の入館料七百三十円のところを年間二千元で入場できるので、是非ご利用入いただきたい。

今後の問題点は、トイレやウミガメの水槽など、古くなった設備を改善していかねばならないこと。また、魚津市に水族館をどう位置づけるのかを考えて、次代の魚津水族館を考えなくてはならない。放っておくと、富山水族館、岩瀬水族館に変わってしまうかも知れない。そうならないよう皆様にも強力なサポートをお願いして私の講演としたい。

平成25年度

同窓会総会

本年度の総会は、8月11日、ホテルグランミラージュにて開かれた。

「不順な天候で災害を被っている地域にお悔やみを申し上げるとともに、無事総会が開催できることに感謝したい」との千田則行会長の挨拶の後、國香校長が、「同窓生の方々が至る所で在校生の活動を支援して下さいることに感謝したい」と日頃のお礼を述べた。

次いで、山本美紀子氏を議長に議事が進められ永年勤続職員表彰があった。

その後、魚津水族館長稲村修氏（28回卒）による「魚津水族館創立百周年を迎えて」と題しての講演が行われた。

懇親会は、幹事学年代表長崎亨氏（44回卒）の挨拶で始まり、千田会長の挨拶の後、澤崎義敬魚津市長が祝辞を述べ、三井信義大阪魚高会会長の近況報告があった。また、



懇親会で挨拶をする
幹事学年代表の長崎亨氏

松嶋法子教諭により新川地区の高校4校の生徒、教員のPTAで行った東北訪問の報告があり、今も仮設住宅での不自由な生活が続いている東北の人々への思いを新

たにした。その後、中尾哲雄名誉会長の乾杯の発声で開宴、和やかな雰囲気の中で親交を深めた。

来年度幹事学年代表の沓掛栄一郎氏（45回卒）が幹事引き継ぎの挨拶を述べ、熊谷組会長の太田弘氏（23回卒）の万歳三唱があり、銘々が同窓生として校歌を歌える幸せを胸に魚津高校の連帯の絆を一層強めて会は幕を閉じた。

「東北の今を知る」プロジェクト

青少年育成賞を受賞



受賞者全員で記念写真

1月19日、ホテルサンルート魚津で行われた新川経済倶楽部主催の新川地域発展賞授賞式で「東北の今を知ろう」プロジェクトが他の7団体と共に表彰された。

ご注意

同窓生宅に息子を装い、特殊詐欺多数ご家族に注意を促してください。

野球部 岩田くん

台湾遠征に参加



岩田峻太郎くん(2の5)

岩田投手が、富山県選抜チームの一員として昨年12月20日から8日間台湾へ派遣された。現地では、地元高校チームと交流試合を行った。選抜チームの監督は、富山第一高校の黒田学監督（魚高51回）。

魚高生の活躍 (9月~1月)

- 第29回富山県高等学校新人水泳競技大会
 - 男子50m平泳ぎ 1位 池田 海斗 (1-5)
 - 男子100m平泳ぎ 1位 池田 海斗 (1-5)
 - 女子100m背泳ぎ 1位 菊池穂乃香 (1-5)
- 第25回富山県高等学校文化祭放送部門発表会
 - アナウンス部門 優秀賞 高橋 梨奈 (1-3)
 - ビデオメッセージ部門 優秀賞
 - 朗読部門 優秀賞 竹本奈々子 (2-5)
- 第25回富山県高等学校文化祭
 - 短歌部門 最優秀賞 吉岡未奈美 (3-5)
- 第25回富山県高等学校文化祭
 - テーマ標語部門 最優秀賞 北野 駿侑 (1-3)
- 第25回富山県高等学校文化祭
 - 写真部門 優秀賞 石崎 祐貴 (2-2)
- とやま科学オリンピック2013
 - 高校部門物理分野 銅賞 萩沢 翔 (2-1)
 - 銅賞 土井 理詩 (2-2)
- 第6回富山県高等学校新聞コンクール
 - 優秀賞

同窓会連絡係 (平成25年度卒)

- 1組 平田 篤己 山ノ下千佳
- 2組 柿澤樹希也 南保 美智
- 3組 村瀬 隼斗 黒川理紗子
- 4組 古市 亮太 目澤沙也果
- 5組 ◎稲垣 吉政 魚谷千淑香

◎は学年代表

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice.tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。